

日本消化器がん検診学会近畿支部

第31回保健衛生研修会実施報告書

対策型検診としての内視鏡検診が開始され5年が経過しました。今回の特別講演では、内視鏡検診導入の背景から、二次読影の重要性、そして精度管理まで幅広い知識を学ぶ機会となりました。また、活動報告では、個別検診における胃エックス線検査の画像評価についてのご苦労された点などをご報告いただきました。今年度も第30回に引き続き新型コロナウイルス感染症のため、WEB開催となりましたが、たくさんの方に参加していただきました。

令和4年1月22日(土)	WEB開催
9:30~10:25	特別講演 「胃内視鏡検診の現状と精度管理」 講師 パナソニック健康保険組合 健康管理センター 辰己 嘉英 氏
10:25~10:40	活動報告 「東大阪市における胃エックス線画像評価の取組み」 演者 東大阪市 健康部 健康づくり課 今仲 恵子 氏
	司会 奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学教室 伊藤 高広 氏

【参加状況】

府県名	大阪府	兵庫県	奈良県	滋賀県	京都府	和歌山県	三重県	愛知県	埼玉県
参加人数	34	17	7	7	6	1	1	1	1

職種	保健師・看護師	診療放射線技師	医師	臨床検査技師	その他
参加人数	13	36	21	4	1

【参加者からの感想】

- 実際の画像も交えての詳しいお話で、内視鏡検診の精度管理を行う上で参考になる講演でした。
- 胃エックス線の画像評価については、取組が難しい部分ですが、現場での実際を、「やりにくさ」を含めてご紹介いただきありがとうございました。

【保健衛生研修委員からひとこと】

今年度は、活動報告も実施でき、有意義な研修会となりました。また、色々な職種、近畿地方以外の方にも参加していただくことができました。これは、WEB開催のメリットだと感じています。お忙しい中、多数ご参加いただきありがとうございました。